

美浜3号機/高浜1~4号機/大飯3・4号は4~5年でプール満杯となり運転不能に

核燃料サイクル政策は「底の抜けたバケツ」



核燃料サイクル政策が破綻してるって、一体 どういうことなの？

原発の使用済み燃料を再処理してプルトニウムを取り出し、それを高速増殖炉で燃やしてプルトニウムを増殖する、この二つともが破たんしているということだよ。いわば、核燃料サイクル政策は「底の抜けたバケツ」なんだよ。



原発の使用済み燃料は、青森ではリサイクル資源と呼ばれているそうだけど、福井県知事はどうして厄介物のように言うのかしら？

使用済み燃料は、再処理しなければ、危険で厄介な高レベル放射性廃棄物にすぎないからだよ。何万年ものあいだ安全に保管できる保証など誰にもできないからね。



関西電力は、2023年までに使用済み燃料を他県に移送させると約束したけど青森県むつ市が念頭にあるんだよね。むつ市は拒否しているようだけど。

若狭には使用済み核燃料が4100トあり、仮にむつ市が3000トを受け入れたとしても、それは一時しのぎにすぎないんだ。関電の原発を稼働し続ければ、2050年代以降すべての原発が廃炉になった後、若狭には5500トの使用済み核燃料が最終的に残ることになるんだよ。



でも、再処理工場が動き出せば、使用済み燃料が循環し、問題は解決するんじゃないの？

ところが、日本にはすでに原爆材料プルトニウムが約54トもあるんだよ。米国などが日本の核武装を警戒するから、日本の原子力委員会は「保有プルトニウム量が減らない限り再処理工場を操業しない」方針なんだ。それに、再処理して残る高レベル放射性廃棄物の処分先もないままだ。



ふうーん、「核燃料サイクル＝底の抜けたバケツ」の意味がよく分かったわ。初めて聞く話だけど、政治家の人たちは理解しているのかしら。

さあ、どうかな。行先のない使用済み燃料をこのまま生み出し続けてよいのか、という根本的な問いに政治家は真摯に答えるべきだと思うよね。



原発のゴミに関するの県民的な議論は必要だと私も思うわ。これまでそういう機会はなかったの？

福井県は、1995年に、原発の安全性や耐震性のテーマで、国・電力と市民側の研究者との討論会を開催しているよ。

1997年には動燃事業団と市民が、もんじゅの耐震性やプルトニウムリサイクルの有効性・安全性をテーマに公開討論会を開催したし、1998年にも武生市で関電と市民がプルサーマル運転の安全性と必要性をテーマに討論している。

だけど、福島事故の後は、電力会社も県も市民との討論会開催をかたくなに拒んでいるんだ。



日本学術会議は2010年に、高レベル廃棄物の最終処分についての政府からの諮問に「いきなり最終処分に向かうのではなく、数十～数百年程度のモラトリアム期間を確保し、都市住民も含めた国民的議論を深めること」と提言しているわ。高レベル廃棄物を未来へ残すことの罪と責任は私たちにもあるわね。ウラン鉱山で被害を受けているオーストラリア先住民の方は「福島事故の責任は私たちにもある」と語っているけど、この有毒で金食い虫の産業を人道の連帯で止めたいね。

私は昨年、青森で「原発で若狭の振興はできなかった」客観的事実を報告した。その折、むつ市民から「むつ市が関電の使用済み燃料を受け入れれば若狭の原発の稼働が続く。申し訳ない」と言われた。だが、詫びるべきは青森の人たちに核のゴミを押し付けてきた私たち福井県民の方だと思う。

